

りんご台木の挿し木における発根促進剤(インドール酪酸液剤)の利用法

りんご台木の挿し木を行う直前に、挿し穂の基部をインドール酪酸液剤オキシベロン液剤) 4 倍液に瞬間浸漬することにより、挿し木後の発根が促進され、活着率が向上する。

表1 農薬使用基準

商品名	作物名	使用目的	使用時期	希釈倍数	使用方法
オキシベロン液剤	りんご(台木)	挿し木の発根促進	挿し木直前	4倍	挿し穂基部瞬間～15秒浸漬

挿し木および接ぎ木挿し繁殖において、オキシベロン 4 倍液瞬間浸漬処理により活着率が無処理およびその他の処理条件よりも向上する。

表2 挿し木における効果

台木	試験区	供試本数	活着率(%)
マルバ	4倍・瞬間	50	96.0
	無処理	50	78.0
JM1	4倍・瞬間	40	67.5
	1000倍・24時間	40	45.0
	粉剤	40	55.0
	無処理	40	47.5
JM7	4倍・瞬間	40	47.5
	1000倍・24時間	39	38.5
	粉剤	40	40.0
	無処理	40	32.5

表3 接ぎ木挿しにおける効果

品種/台木	試験区	供試本数	活着率(%)
ふじ/JM7	4倍・瞬間	30	53.3
	無処理	50	40.0
きたろう/JM1	4倍・瞬間	40	47.5
	無処理	40	22.5

更に、JM系台木では挿し木後、発根量が増加する傾向がみられる。

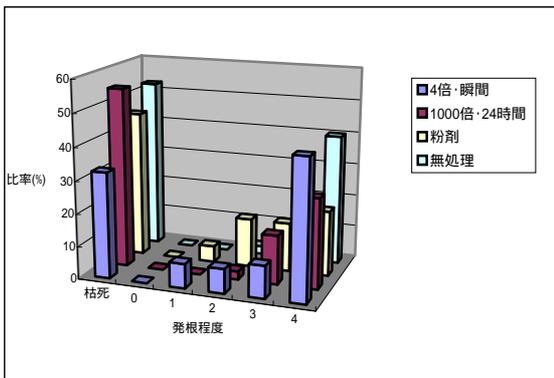


図1 JM1の発根量への影響

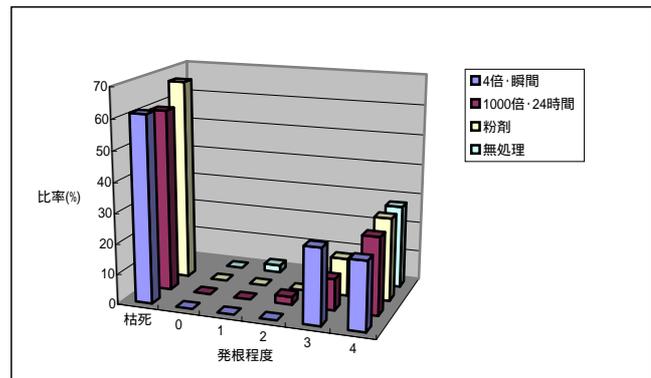


図2 JM7の発根量への影響

- 発根程度基準 0: 全く発根見られない 1: 発根量少なく、更に苗圃で1年養成を要する
 2: 発根量多くないが、乾燥防止など定植時に丁寧に扱えば定植可能
 3: 発根量多く、問題なく定植可能 4: 発根量きわめて多く、定植後旺盛な生育が望める